



联合国  
粮食及  
农业组织

FOOD AND  
AGRICULTURE  
ORGANIZATION  
OF THE  
UNITED NATIONS

ORGANISATION  
DES NATIONS  
UNIES POUR  
L'ALIMENTATION  
ET L'AGRICULTURE

ORGANIZACION  
DE LAS NACIONES  
UNIDAS PARA  
LA AGRICULTURA  
Y LA ALIMENTACION

منظمة  
الغذية  
والزراعة  
للأمم  
المتحدة

#### Liaison Office in Japan

6F Yokohama International Organizations Center, Pacifico-Yokohama,  
1-1-1, Minato Mirai, Nishi-ku, Yokohama 220-0012, Japan

Tel. (045) 222-1101  
Facsimile: (045) 222-1103  
E-Mail Address: FAO-LOJA@FAO.ORG

LOJAPR04/09- No.74

## FAO プレスリリース

FAO (国際連合食糧農業機関) 日本事務所  
2004年12月27日

### FAO による 2004/2005 年度の世界の食料需給見通しについて

2004 年の世界の穀物生産は、前年を約 8.4 % 上回る 20 億 4,200 トンと予測され史上最高  
このことから穀物在庫は 5 年ぶりに増加の見込み

FAO (国際連合食糧農業機関) がこの度発表した標記、2004/2005 年度の世界の食料需給見通しの概要は下記の通りである。

#### (概要)

#### 1. 穀物の需給、価格等

##### 1.) 2004 年の世界の穀物生産：

穀物全体では、前年を 8.4% 上回る 20 億 4,200 万トンとなり、史上最高を記録すると推定される。類別では、

ア. 粗粒穀物については、特に米国でのトウモロコシが大豊作となったことや、中国でも生産拡大増産となっているため、前年度比 8.5% の伸びと予測される。

イ. 小麦についても、欧州を中心として単収増加もあり増産基調にあり、前年度比 10.8% 増と見込まれる。

ウ. コメについては、特に中国の生産が好調であることから、生産量は 4 億 820 万トン (精米ベース) で、前年度比 4.8% 増と見込まれる。

##### 2.) 2004/2005 年度の世界の穀物消費量：

主として飼料用の粗粒穀物の需要が前年度比 3.6% 増と大きな伸びを示し、6 億 2,100 万トンとなることから、穀物消費量は全体として、前年度を 2.4% 上回る 20 億 350 万トンとなるものと予測されている。

##### 3.) 穀物在庫：

2003/2004 年度には、過去 20 年間で最低水準となったものの、2004/2005 年度は一転して増加する。これは、コメの在庫は引き続き減少するものの、トウモロコシ、小麦については主要輸出国での在庫増加が予測されることから、全体では 4.41 億トンとなると見込まれる。在庫が前年度に比べて増加に転じたのは 5 年ぶりである。

4.) 2004/2005 年度の穀物の貿易：

2 億 2,800 万トンと前年度をかなり下回ると見られる。これは、世界の小麦の貿易が前年同様、前年度を下回るとともに、コメや粗粒穀物についても前年度を下回るためである。全体では、過去 6 年間で最低水準となった前年度に引き続き、減少の見通しである。これは、開発途上国、特に中国での輸入増加が見込まれる一方で、EU では穀物需要減を反映して、大幅に輸入が減少すると見込まれるためである。

5.) 穀物価格：

小麦と粗粒穀物については、大幅な輸出供給量と在庫水準の高まりを反映して、2004/2005 年を通じ総じて弱含みと見られる。一方、コメについては、主要生産国での生産減少から総じて堅調の見込みである。

## 2．穀物以外の製品の需給及び価格

1.) 油糧種子等：

ア. 2004/2005 年度における世界の油糧作物の生産：

前年度比 12%増の大幅な増加が見通される。これは、主として前年度比 20%増となる大豆の生産量の伸びによるものである。米国、ブラジル、アルゼンチンおよび中国の主要 4 大豆生産国において、いずれも記録的な生産が見込まれる。なかでも米国では、前年度比 27%の生産増加が見込まれる。

イ. 油糧種子等の価格：

油糧種子の価格は、前年末以降高値であったが、主として 2004/2005 年度の米国での大豆の大豊作が確定すると、10 月以降下方に転じている。また、このことから油粕の増産も見込まれるため、油粕価格は下げが見込まれる。

その一方で、植物油価格は、食用及び非食用ともに高い需要と在庫補填への対応の後でもなお比較的堅調と見込まれる。

2.) 肉類

ア. 2004 年の食肉生産：

前年比 2%増の 2 億 5,800 万トンと予測している。増加の主因は、豚肉生産の伸びによるものである。一方、家禽肉生産は、アジア鳥インフルエンザの影響でその伸びがわずかに 1.6%に留まった。なかでも、アジアの 3 大家禽生産国、タイ、ベトナムおよびインドネシアにおけるアジア鳥インフルエンザの発生のため、過去 5 年間、年 5%の増加を続けてきたアジアの家禽生産は、本年は前年度比 3%減となった。他方、この影響による高価格から、南アメリカでの家禽生産は前年比 7%増と大幅な生産を記録することとなった。牛肉の世界総生産量は、先進国の牛肉生産が 1970 年代初期以来の低水準に下落したにもかかわらず、途上国での生産増加により前年比 1.5%増の 6,620 万トンに達すると見込まれる。

イ. 肉類の価格：

病疫にともなう食の安全性への懸念を主因として、家禽及び牛肉価格は 2004 年半ばには 8 年ぶりの高値をつけた。しかし、その後、輸入国での食肉の輸入解禁があったことから輸出向け供給量が増えたため、価格はこのところ安定的に推移している。

2005 年については、食肉生産は回復が見込まれることから、価格は低位で安定的に推移し、貿易の増加を促進すると見込まれる。

3.) 乳製品：

ア. 2004 年の乳製品の世界総生産：

前年比 1.9%増の 6 億 1,150 万トンと見込まれる。これは、主としてアジア、ラテンアメリカおよびニュージーランドでの生産の増加が寄与している。

イ. 乳製品の国際価格：

2004 年を通して増加し続け、1990 年以降最高の価格をつけた。これは、アジアでの好調な需要と輸出供給量が十分でなかったことを反映したものである。乳製品の価格は、暫くの間、堅調に推移すると見込まれるものの、2005 年には供給増が価格下げに転ずる要因となると見られる。

4.) 砂糖：

ア. 2004/2005 年の砂糖の生産：

2004/2005 年は、ブラジルでの増産から前年度を 2%上回る。

世界の消費は、2004/2005 年には中国での消費拡大が見込まれることからやや増加すると FAO は予測する。

イ. 砂糖の価格：

品不足基調が続くことから、本年 10 月にニューヨーク取引所で 2005 年価格について高値で取引がなされたものの、他方、在庫に余裕があるためほぼ現行水準で推移すると見られる。

## <主要地域別・国別見通し>

### (アジア)

中国の 2004 年における小麦生産は 9,100 万トンと推定され、前年を 6%上回り、ここ数年にわたった不作続きに歯止めをかける見通しである。その主因は、小麦（特に秋播小麦）の生育状況が良好で、作付面積が前年から 5%増の 100 万ヘクタール分の増加があったためである。インドの 2004 年の小麦生産は、作付面積の回復から、前年を 12%上回る 7,300 万トン増加するものと予測される。現在、冬小麦は順調に生育中である。

粗粒穀物については、中国では、前年比 11.6%増の 1 億 4,100 万トンと見込まれる。インドでは、長引く乾期のため、前年に比べ 3.5%減の 3,350 万トンと予測されている。

コメについては、中国では、気候に恵まれ、作付面積、単収に増加がみられる。アフガニスタン、北朝鮮、パキスタン、フィリピンやベトナムでは豊作。これらの結果、アジア全体のコメ生産は、前年は 5 億 3,020 万トンであったのに対し、今年は 4.3%増の 5 億 5,280 万トンとなった。なお、バングラデシュ、カンボジア、インド、マレーシ

ア、ミャンマー、ネパール、スリランカおよびタイでは、干ばつや洪水など悪天候のため不作と見込まれている。

## （アフリカ）

北アフリカでは、2004 年における小麦生産は天候にも恵まれたことから前年をやや上回り、1,750 万トンとなった。粗粒穀物については、前年並みと予測されている。砂漠バッタによる影響については、大規模な防疫活動により今年は回避することが出来たが、サヘル地域を逃れ北上している砂漠バッタの脅威はいまだ潜在している。

西アフリカでは、砂漠バッタの影響を受け、特にマラウイでの粗粒穀物の生産は例年と比べ 40% 減となった。また、カーボベルデでのトウモロコシ生産は、去年の 3 分の 1 にまで減少した。ブルキナファソ、チャド、マリ、ニジェールやセネガルの粗粒穀物についても同様の減少が見られた。コメについては、ギニア、ニジェールにおいて例年より少し上回り良好であった。対して、チャド、コートジボアール、ガーナ、マリやセネガルにおいては、不安定な降雨、砂漠バッタや内戦の影響でコメの生産に減少が見られた。

東アフリカでは、小麦は例年並の 220 万トンと見られる。エチオピアでの収穫は順調と見られる。スーダンでは、前年より早めの収穫だが、収穫量は例年並である。他方、粗粒穀物については、タンザニア以外の地域では気温が例年と比べ低かったため、去年の 14% 減の 1,900 万トンとなる。ソマリアでは例年の 25% 減の 12.5 万トン、ケニアでは、過去 5 年間平均 200 万トンを下回る 170 万トン、他、ウガンダ、エチオピアやスーダンでも平均を下回った。エリトリアにおいては、前年並みであった。対して、タンザニアでは、去年の 19% 増の 400 万トンと予測されている。コメの生産量はタンザニアにおいて良好であった。

南部アフリカでは、天候に恵まれ、小麦は、干ばつの影響を受けた前年と比べ、20% 増の 220 万トン。粗粒穀物の収穫量も、特にアンゴラ、モザンビーク、ジンバブエにおいて申し分なかった。しかしながら、一部の地域において天候不良のため、粗粒穀物は例年と比べ 4% 減の 1,640 万トンで、主要穀物のトウモロコシは 1,490 万トンであると見られる。また、コメの生産量については、マダガスカルにおいて良好、対して、マラウイおよびモザンビークにおいては、不安定な降雨、砂漠バッタや内戦の影響で減少が見られた。

中央アフリカについては、カメルーンでのトウモロコシの生産はますますであった。他方、中央アフリカ共和国では、天候に恵まれ、また種子の配給が行われたにもかかわらず、いまだ食料生産は不安定である。

## （北米）

小麦については、米国では、去年の作付け削減により前年比 8% 減の 5,870 万トンとなった。カナダにおいては、前年比 4% 増の約 2,450 万トン。

粗粒穀物について、米国では、その大半を占めるとうもろこしについては、3 億 1,900 万トン。カナダでは、粗粒穀物については、雨が降りすぎたことにより収穫開始の

タイミングが妨げられたことと、早めにきた霜や雪により収穫終了時期が早められたことを反映して、前年比 3%減の約 2,570 万トンとなると見込まれている。

### **（欧州）**

EU の小麦生産は、前年を 600 万トン上回る 1 億 3,500 万トンと見込まれる。粗粒穀物は前年を 800 万トン上回る 1 億 5,100 万トンと見込まれている。また、バルカン諸国での小麦生産も、去年の干ばつによる不作から回復している。粗粒穀物生産についても、特にルーマニアにおいては前年の 60%増の 1,500 万トンと見積もられている。この他、ロシア、ウクライナなど CIS 諸国では、小麦は前年の 2,400 万トン増の 6,200 万トンと見込まれる。CIS 諸国ではトウモロコシなどはあまり生産されていないが、ウクライナにおける粗粒穀物生産は前年の 260 万トン増の 5,480 万トンであると見通される。

### **（オセアニア）**

オーストラリアの小麦生産については、一部の地域での干ばつによりここ数年好調であったときと比べ 20%減の 2,000 万トンである。同様の理由で粗粒穀物も生産は芳しくなく、1,020 万トンであると見込まれている。コメの生産については、前年程度の 559,000 トンの出来であろうと見積もられている。

(表2) 世界の穀物生産、輸入、消費、在庫、輸出価格の動向

	2000/2001	2002/2003	2003/2004	2003/2004 (概算)	2004/2005 (予測)	対前年度比
<b>世界の生産量</b>	(.....100万トン.....)					(%)
小麦	585.9	588.4	569.4	560	620.4	10.8
粗粒穀物	876.7	919.5	879.9	933.6	1 013.1	8.5
コメ(精米)	401	400.9	382.1	389.4	408.2	4.8
( 籾 )	(599.7)	(599.6)	(571.9)	(583.2)	(610.6)	4.7
<b>計</b>	<b>1 863.6</b>	<b>1 908.7</b>	<b>1 831.5</b>	<b>1 883.0</b>	<b>2 041.6</b>	<b>8.4</b>
開発途上国	1 009.2	1 029.2	998.1	1 045.4	1 076.2	3.0
先進国	854.5	879.5	833.3	837.6	965.4	15.3
<b>世界の貿易量</b>						
小麦	100.9	109.6	108.6	103.0	100.5	
粗粒穀物	108.4	105.4	106.9	106.0	102.5	
コメ(精米)	24.2	28.1	27.7	26.1	25.2	
<b>計</b>	<b>233.5</b>	<b>243.1</b>	<b>243.2</b>	<b>235.1</b>	<b>228.2</b>	
内:食糧援助量	8.9	7.5	8.3	7.4		
<b>世界の消費量</b>						
小麦	589.2	598.8	604.0	600.4	614.4	2.3
粗粒穀物	904.3	925.0	917.5	948.3	976.8	3.0
コメ(精米)	402.8	404.6	406.1	406.9	412.2	1.3
<b>計</b>	<b>1 896.4</b>	<b>1 928.4</b>	<b>1 927.6</b>	<b>1 955.6</b>	<b>2 003.5</b>	<b>2.4</b>
開発途上国	1 144.9	1 163.0	1 164.3	1 189.0	1 200.5	1.0
先進国	751.5	765.4	763.3	766.6	802.9	4.7
<b>1人当たりの食用穀物消費量</b>	(.....kg/年.....)					
開発途上国	160.2	160.0	158.4	159.3	158.9	-0.2
先進国	132.1	131.8	131.3	131.0	130.9	-0.1
<b>世界の在庫量</b>	(.....100万トン.....)					
小麦	243.7	235.3	202.2	159.2	161.4	1.4
粗粒穀物	207.7	197.4	162.8	147.3	180.7	22.6
コメ(精米)	148.7	142.4	118.5	102.9	98.8	-4.0
<b>計</b>	<b>600.1</b>	<b>575.1</b>	<b>483.5</b>	<b>409.4</b>	<b>440.8</b>	<b>7.7</b>
開発途上国	438.6	406.3	339.1	286.7	275.3	-4.0
先進国	161.4	168.8	144.5	122.8	165.6	34.9
<b>輸出価格</b>	(.....US\$/トン.....)					
コメ(タイ 100%、2等級)	207	177	197	201	241	19.9
小麦(米国 No.2ハード ウィンター)	128	127	161	161	155	2.6
トウモロコシ(米国 No.2 イッド)	86	90	107	114	99	-3.9
<b>低所得食料不足国の需給</b>	(.....100万トン.....)					
地下茎、塊茎及び派生物の生産量 <sup>1)</sup>	449.9	445.8	447	448.3	448.7	0.1
穀物の生産量(コメは精米)	781.6	788.2	768	787.5	817.4	3.8
1人当たりの穀物生産量(Kg)	203.6	202.4	194.5	196.6	201.3	2.4
穀物の輸入量	76.5	82	80.9	77.1	85.5	10.9
内:食糧援助	7.7	6.5	6.7	6.1		
穀物輸入に占める食糧援助の割合	(.....%.....)					
	10.1	7.9	8.3	7.9		

資料: FAO

注: 合計及びパーセントは、四捨五入する前の数値から算出されている。

- 1.) 「地下茎、塊茎及び派生物の生産量」は、でん粉を含む根、塊茎、根茎、球茎、茎を産する植物(ばれいしょ、かんしょ、キャッサバ、ヤウティア、タロイモ、ヤマイモおよびその他根茎作物)である。主として飼料(マンゴールド、カブハボタン)または砂糖製造(サトウダイコン)用に栽培される作物ならびに「根、鱗茎および塊茎野菜」(タマネギ、ニンニク、ビート)は除く。

**プレスリリースへのお問い合わせ、ご意見等はFAO日本事務所 山本・吉村まで**

電話、ファックスでご連絡ください。

国際連合食糧農業機関（FAO）日本事務所  
〒220-0012 横浜市西区みなとみらい1-1-1  
パシフィコ横浜 横浜国際協力センター 5 階  
TEL: 045-222-1101, FAX: 045-222-1103

FAO 日本事務所のホームページは <http://www.fao.or.jp>  
FAO 本部（ローマ）のホームページは <http://www.fao.org>

< 本プレスリリースは、FAO日本事務所ホームページに掲載される予定です。 >